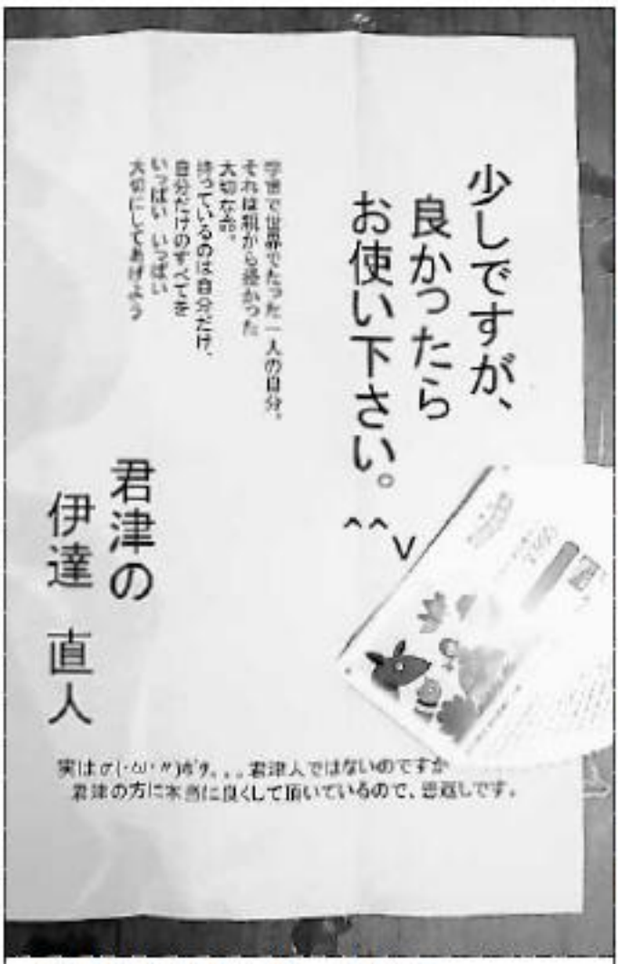
県内にも「伊達直人」

児相に100万円■図書カード1万円■ランドセルも

児童養護施設などにマンガ「タイガーマスク」の主人公・伊達直人を名乗って贈り物をする現象が広がる中、県内でも11日、君津市の児童相談所とファミリーホームに、現金１００万円と図書カードがそれぞれ贈られた。千葉市の施設にもランドセルが届いた。贈り主は伊達直人を名乗ったり、「伊達直人に影響された」と話したりしていたという。（畑山敦子）



君津市のひろせホームに届けられた図書カードと手紙

県などによると、11日午後1時半ごろ、君津市の君津児童相談所に、60代くらいの男性が封筒に入れた現金１００万円を持って訪れた。男性は「伊達直人に影響され、県内の児童福祉施設にいる子どもたちがランドセルや必要なものを買うために使ってくれれば、と思って持ってきた」と話し、職員に現金を手渡した。名前や住所は明かさなかったという。

この男性はまず富津市役所を訪れ、職員に「知事に渡したい」と告げた。その際児相を紹介されたという。

報告を受けた県児童家庭課は「非常にありがたい。本人の意思をくんで有効に使いたい」と話し、寄付金は県の子ども支援に関わる事業の予算に入れるという。

同じく君津市で、里親が幼児から小学生まで6人の子どもを育てるファミリーホーム「ひろせホーム」には、図書カード1万円分が届いた。里親の広瀬タカ子さん(63)によると、11日午後1時半ごろ、ポストの前に立っていた男性が乗用車で走り去るのを偶然見た夫の正さん(66)がポストを確認すると、図書カード入りの封筒があったという。

同封された手紙には「君津の伊達直人」の名で「少しですが、良かったらお使いください」というメッセージが書かれていた。子どもたちは「すごい、うちにも届いた」と喜んでいたという。タカ子さんは「会ってお礼がしたいが、名前を出せない事情もあるんだろう。子どもたちの好きな本が買えるようになってよかった」と話す。

11日夜には、千葉市稲毛区の児童養護施設の入り口に、ランドセル4個が置かれているのが見つかった。伊達直人よりという手紙が添えられていた。この施設に新1年生はいないというが、施設側は「気持ちをありがたく受け取り、ほかの施設に譲りたい」としている。

このほか、県には「報道を見て自分も何かやりたいと思っているのだが、何をあげれば喜ばれるか」という問い合わせもあったという。

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。